

# Monthly News Letter



2022年9月15日 新潟日報より

燕市桜町の障害者作業所「トム・ソーヤ」の工房で製造しているストールの今年の販売が10月に始まる。鮮やかな色と多彩な柄が魅力で、手織りの一点物ということ

も人気を集め、市のふるさと納税の返礼品にも選ばれている。今回はカシミヤと生後3カ月以内のアルパカから採取した毛糸を使い、防虫用のスチール缶を付けた。

## 今季はカシミヤ、アルパカ 来月発売



写真＝ストールを作る田中佳菜さん（左）と近藤麻理子理事長＝燕市桜町

工房1階の「煎茶つばめ」の他、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで販売する。10月8、9の両日には燕市文化会館にも出店する予定。ストールの新規取扱店も募集している。

問い合わせはトム・ソーヤ、0256（66）0003。

## ぬくもり伝わる 手織りストール

工房では利用者の自立と  
安定した賃金の確保のた

工房を運営するNPO法人理事長の近藤麻理子さん（68）は「手織りだと糸の間

15年ほど前にストール作りを始めた。現在製作を担当しているのは、10年近くのキャリアがある田中佳菜さん（31）ら4人。卓上織機で丁寧に織り上げるため、1枚作るのに1週間から10日ほどかかる。

ぬくもり伝わる手織りストールは、15年ほど前にストール作りを始めた。現在製作を担当しているのは、10年近くのキャリアがある田中佳菜さん（31）ら4人。卓上織機で丁寧に織り上げるため、1枚作るのに1週間から10日ほどかかる。

ぬくもり伝わる手織りストールは、15年ほど前にストール作りを始めた。現在製作を担当しているのは、10年近くのキャリアがある田中佳菜さん（31）ら4人。卓上織機で丁寧に織り上げるため、1枚作るのに1週間から10日ほどかかる。

## 燕の福祉作業所トム・ソーヤ

燕の福祉作業所トム・ソーヤ

## 一点物 お好みで

近藤さんは「実際に手に取つて肌触りを確かめてほしい。世界に一枚のストールから自分に合うものを選んでもらえれば」と話している。

近藤さんは「実際に手に取つて肌触りを確かめてほしい。世界に一枚のストールから自分に合うものを選んでもらえれば」と話している。

